2018年10月1日発行（季刊発行）

図書館報 ぷらっつ★篠崎

059号

P2～P3 特集
「篠崎アワード」
P1 新館長あいさつ
P4 江戸川まいにんぐ「景観まちづくり賞」
P4 スタッフのセレクション！「モンティ・パイソンができるまで」

©講談社

２０１８年読書週間標語 ホッと一息 本と一息

10月27日（土）から11月9日（金）は、**「読書週間」**です。篠崎図書館では今年も、読書週間にちなんだ企画を実施します。その企画内容とは……。

読書週間特別展示
翻訳家・岸本佐知子が選ぶ「大人にこそわかる味わい深い本３０冊」
１１月5日（月）～２９日（木）

翻訳家でエッセイや書評などでも活躍されている岸本佐知子氏に、読書の秋にお薦めの30冊を選んでいただきました。年を重ねた現在だからこそわかる味わい深い本をぜひご堪能ください。

イベント情報

「岸本佐知子トークショー　～本、私、翻訳～ 」

翻訳家の岸本佐知子氏をお招きし、翻訳の裏話や本の魅力、日々感じていることなどについてざっくばらんにお話をうかがいます。

11月4日（日）
14時　開演　（13時30分　開場）
場所：篠崎文化プラザ　講義室
定員：50名（事前申し込み制）
10月11日（木）14時から図書館カウンターまたはお電話にて受付します。

はじめまして。新館長の波多野（はたの） 吾紅（あこ）です。

4月より、篠崎図書館と篠崎子ども図書館の館長をしております波多野吾紅と申します。以前は、電機メーカーの広告部でイベント企画やプロモーションを担当していました。趣味は、お菓子作りと読書です。大好きな本に囲まれた第二の職場で、これまでの経験を活かしていけたらいいなと思っております。

篠崎図書館は、児童書がなく落ち着いた雰囲気、の大人のための図書館です。スタッフは「明るく、楽しく、すぐにやる」を行動規範として、皆様に親しまれる図書館を目指しております。スタッフ同士がアイディアを出し合ってイベントを企画したり、展示を行なったり、利用者の皆様と本との新たな出合いが生まれるためのさまざまな仕掛けを作っています。ぜひお立ち寄り頂き、有意義な時間を過ごしていただけたら嬉しいです。どうかよろしくお願いいたします。

江戸川まいにんぐ　発掘　第５９回
『景観まちづくり賞』

江戸川区内のイベントやスポットを、スタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

今号の江戸川まいにんぐは、特集コーナーのテーマ「篠崎アワード」にちなんで江戸川区の賞についてご紹介いたします。

「景観まちづくり賞」をご存知でしょうか。良好な景観形成を推進するため、区が活動や建築物などを表彰します。2011年に始まった同賞は今年で第8回を数え、現在募集期間中です。

募集されるのはふたつの部門から。ひとつは「まちづくり活動部門」。まちかどや公園、街路樹、水辺などの手入れやそこでのイベント活動、区の魅力を広め伝える活動などを行っている、個人または団体が対象です。もうひとつは「まちなみ建築部門」。こちらは広場や建物などに向けた部門で、周辺環境と調和し、優れた景観を創出していることが評価されます。

前回はまちづくり活動部門で「旧中川灯篭流し実行委員会」「一之江抹香亭ボランティア」「花と緑」が、まちなみ建築部門では「Cerisier（セリシール）」「三角診療所」「グローバルキッズ船堀園」が表彰されました（敬称略・順不同）。

日ごろ何気なく目にする街並みは、すべて誰かの手によるもの。そんなことに気づかせてくれる「景観まちづくり賞」に注目してみませんか。

※第8回の募集は12月7日（金）まで。詳しくは区のホームページ（https://www.city.edogawa.tokyo.jp/kankyo/toshikeikaku/keikan/keikanmatidukurisyo/index.html）をご覧ください。

参考資料
『広報えどがわ　2011年10月20日号』
『広報えどがわ　2018年6月10日号』

スタッフのセレクション！

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

『モンティ・パイソンができるまで』

ジョン・クリーズ著　安原　和見訳　早川書房
779.9ク　中央ほか所蔵

野道を走る馬車を一人の義賊が停止させる。乗車していた富豪達から金品を巻き上げた義賊はそれを貧民のもとへ。いわゆる鼠小僧だが話はここで終わらない。略奪を何度も繰り返すうちにやがて、貧しい富豪から金品を巻き上げ富んだ貧民に献上することに。（おまけにアガリが少ないと文句を言われる）

この「義賊デニス・ムーア」のコントが、ジョン・クリーズとの出会いだった。今では最も好きな喜劇俳優であるが、大ヒットした魔法使いの映画や、世界一有名なスパイ映画に脇役で出演していても日本ではあまり話題にならない。主な活躍は1976年に日本でも放送された「空飛ぶモンティ・パイソン」（※1）だが、それ以前の活動についてはなかなか情報が残っておらず、幼少期～ケンブリッジ・フットライツ（※2）時代の話を本人の回想からうかがうのはファンとしては興味深い。

長身で高圧的な役が多いので気難しいイメージがあるが、実像は真面目すぎるのである。実際、他のパイソンズのメンバーが、医学、歴史研究、旅人、音楽、映画監督と、多方面で活躍する一方、この人だけは喜劇一筋である。自信が持てない自分の演技に悩む姿は気難しいとは程遠い。

御年78歳となった現在、声優としての出演が多くなったが、たまに元気な姿を見ると嬉しくなる。本人は隠居しているつもりみたいだが、まだまだ人を楽しませることを何か画策しているのではないかと期待してしまう。そろそろ「モンティ・パイソン50周年」の話題が出ても良い頃かと。

（※1）英BBCで1969年～1974年まで放送されたコメディ番組。今では出演していた主要なメンバー6人を「モンティ・パイソン」「パイソンズ」等と呼称している。
（※2）英ケンブリッジ大学、名門コメディサークルのこと。パイソンズでは、ジョンを含む3人がここの出身。

編集後記

10月から3か月連続でマラソン大会に出ます。ついに、痩せちゃいます。乞うご期待！（風雲ふわふわ丸）／ママ友とテニスを始めて気がつけば、15年経っていたー。なおみちゃんのパワーを分けて欲しいと思う今日この頃。（ちゃしこ）／混雑を避けて9月にプールに行ってきました。ほどほどの賑わいの中、しっかり夏気分を味わえました。（モシャリー）

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ内
TEL：03-3670-9102
[しのざき文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
https://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/